

建築教育ニュース

1998. 11

東日本建築教育研究会

目 次

1. 会長あいさつ……………会 長…北島 敬己… 1
2. 平成9年度事業および会計（決算）報告……………事 務 局… 2
3. 平成10年度事業計画・会計（予算）および役員名簿……………事 務 局… 4
4. 平成10年度総会・研究協議会報告……………北海道札幌工高…沼田 勲… 8
5. 夏期研究協議会に参加して……………宮城県古川工高…中鉢 紀男…11
6. 製図分科会報告……………主査 市川工高…菊池 貞介…13
7. 計画分科会報告……………主査 小田原城北工高…大庭 孝雄…16
8. 施工分科会報告……………主査 日工大付東京工高…内藤美雪丸…20
9. 構造分科会報告……………田無工高…大久保 健…24
10. 製図コントロール運営委員会報告……………委員長 蔵前工高…土田 裕康…27
11. 資格取得検討委員会報告……………委員長 春日部工高…長島 佳久…31
12. 秋田県工業高等学校建築教育の現況……………大曲工高…高橋 義則…32
13. 山形県工業高等学校建築教育の現況……………山形工高…深瀬 光昭…34
14. 新潟県工業高等学校建築教育の現況……………新潟工高…景山 常樹…36
15. 福井県工業高等学校建築教育の現況……………武生工高…橋本 和之…38
16. 事務局ニュース・報告……………事務局長 蔵前工高…堀内 仁之…40

あ と が き

1. あいさつ

会長 東京都立蔵前工業高等学校長

北 島 敬 己

平成10年度第48回東日本建築教育研究会北海道大会は、去る6月11日、12日札幌市の「ホテルライフオーツ札幌」において開催されました。総会・研究協議会は、多数の会員参加のもと、熱心な研究発表と討議が行われて多大の成果が得られたと確信しております。また、北海道開拓の村の研究視察は、北海道の歴史的な建築物を見ることができ、研究発表された「北海道の建築教育」と関連し、大変有意義なものでした。

さて、文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官の佐藤義雄先生には、大変お忙しい中ご出席くださりまして、中央教育審議会からはじまって、教育課程審議会が「審議のまとめ」を公表する時期にきていたその内容を詳しくご説明いただきました。また、我々に直接関係する建築科については、理科教育及び産業教育審議会の状況と今後の学習指導要領の作成、告示、教科書についてまでお話しいただき感謝申し上げます。

佐藤先生は世の中のニーズと離れてはいけない、ミスマッチをなくしていかなければならないと強調されていました。さらに、今回の改訂では建築科は小幅の改訂になると思うが、次回には内容に踏み込んでまでやらざるを得ないだろうとも言われました。このことは会員一人一人が、建築科のあり方から真剣に考えていかなければならないことを示しています。本研究大会に参加されました方は、ご指導いただいたことを学校や地域でぜひとも話題にし、実践に結びつけた行動を起こしていただきたいと思います。

このように充実した研究大会とすることができたのも、北海道教育委員会、北海道工業高等学校長会をはじめとした北海道の方々の綿密な計画と温かいご配慮の賜と存じます。心から御礼申し上げます。

ところで、昨年この紙面で記述しました文部省の「教育改革プログラム」は、本年4月28日に再改訂されました。中学校のナイフによる殺傷事件が相次ぐなど、深刻な青少年非行状況を受け、心の教育を充実させるための具体策を示したほか、中央教育審議会の中間報告などを踏まえての改訂でした。基本的な考え方としては、心の教育の充実、個性を伸ばす学校制度の実現、現場の自主性を尊重した学校づくり及び大学改革と教育振興の推進の四点です。今後の教育改革の流れを知る意味で重要な内容が記述されていますので読んでほしいと思います。

来年の研究協議会は秋田県で開催されます。多数の会員が参加されることを期待します。

2. 一平成9年度 事業報告一

1 総会・研究協議会の実施

期 日：平成9年6月12日(木)～13日(金)

会 場：「ホテル国際21」 長野市県町576

1) 総会……………第1日(6月12日)

2) 研究協議会 I (分科会)

共通テーマ 「厳選に伴う内容の整理」

・製図分科会 建築設計製図の学習指導の目標と指導法について

・計画分科会 建築史の学習指導法について

「アンケート結果と指導法について」

・構造分科会 建築構造設計の学習ソフトによる補足指導について

・施工分科会 建築施工の学習指導法について

「単位減に伴う建築施工の指導法及び建築施工技術者試験の指導法について」

3) 教育懇談会

4) 研究協議 II (全体会)……………第2日(6月13日)

・分科会報告(各分科会主査)

・研究発表 テーマ：「善光寺の歴史と建物」

長野県上田千曲高等学校教諭 相原文哉先生

・質疑応答

5) 講評 文部省教科調査官 佐藤義雄先生

6) 研究視察

冬季オリンピック施設(2班に分かれて実施)

2 夏期研究協議会(構造分科会主催)

内 容：「教科学習及び学習補助教材としての学習ソフトの製作」に関する講習会

期 日：平成9年7月24日(木)、25日(金)

会 場：東京都立田無工業高等学校

東京都田無市向台町1-9-1 (Tel 0424-64-2225)

3 常任理事会・委員会等

1) 理事会：理 事 会 平成9年6月12日 於「ホテル国際21」会議場

常任理事会 平成9年10月26日

12月6日 於都立蔵前工業高等学校

平成10年3月14日

2) 主査会：理事会の開催日及び平成9年7月24日、平成10年2月26日、4月1日
(於都立蔵前工業高等学校)

3) 分科会：各分科会主査により随時(各主査より)

4) 委員会：各委員会委員長により随時

教 材 委 員 会 本会が関与する出版物の検討

製図コンクール運営委員会 製図コンクールの実施(第16回)

編 集 委 員 会 名簿、建築教育ニュースの発行

資 格 取 得 検 討 委 員 会 建築施工技術者試験実施に向けて、試験後のアンケート調査

創立50周年記念事業委員会 創立50周年事業に向けて規則・委員会の構成等を定めた

4 事務局

関係諸団体との連絡調整

全国工業高等学校長協会

標準テスト作成委員の推薦(委託)

全国高等学校建築教育連絡協議会

建築施工技術者試験の運営協力

西日本工高建築連盟

総会・研究協議会に代表派遣

北海道建築教育研究会

総会・研究協議会に代表派遣

総会・研究協議会開催資料等の作成・発送

理事会の開催。各分科会、各委員会の連絡調整

以上

—平成9年度 会計決算報告—

平成10年4月1日
 会長 北島 敬己
 会計事務局

下記の通り御報告いたします。

1. 収入額

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
会費	912,000	912,000	0	152校分(6,000円×152校)
雑収入	50,156	50,392	236	助成金、銀行利子
印税	125,000	155,111	30,111	基礎問題、図集等
繰越金	115,244	115,244	0	
合計	1,202,400	1,232,747	30,347	

2. 支出額

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
1) 事業費	875,000	820,700	54,300	
総会費	250,000	196,300	53,700	協議会補助、本部経費等
資料費	240,000	239,400	600	資料、ニュース印刷費等
講習会補助	60,000	60,000	0	夏期講習会(構造)補助
出張補助費	125,000	125,000	0	西日本、北海道出張補助
分科会費	200,000	200,000	0	4分科1委員会各40,000円
2) 運営費	295,000	280,500	14,500	
役員会議費	15,000	10,000	5,000	常任理事会・主査会等
通信費	140,000	130,500	9,500	総会通知、ニュース発送等
雑費	10,000	10,000	0	事務用品代
事務費	10,000	10,000	0	事務局運営費
名簿費	120,000	120,000	0	名簿作成費
3) 予備費	32,400	10,000	22,400	敬弔費(前会長、供花)
4) 合計	1,202,400	1,111,200	91,200	

3. 差引残高 1,232,747 - 1,111,200 = 121,547円 収入増 30,347円

4. 次年度繰越 121,547円 支出減 91,200円

会計監査の結果、収支、帳簿等相違ないことを認めます。

平成10年5月8日

会計監査 高橋 義治
 前田 潔

3. 一平成10年度 事業計画一

1 総会・研究協議会

期 日：平成10年6月11日(木)～12日(金)

会 場：「ホテルライフオート札幌」

〒064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目 (Tel 011-521-5211)

1) 総会……………第1日(6月11日)

2) 研究協議 I (分科会)

共通テーマ 「厳選に伴う内容の整理」

製図・計画・構造・施工の4分科会に分かれて協議会を実施する。

3) 夕食会(教育懇談会)

4) 研究協議 II (全体会)……………第2日(6月12日)

・研究発表 「北海道の建築教育」

I 北海道札幌工業高等学校 高崎 格

II 北海道室蘭工業高等学校 山本 悦徳

III 北海道札幌工業高等学校 伊藤 茂樹

・分科会報告(各分科会主査)

・質疑応答

5) 講評 文部省教科調査官 佐藤義雄先生

6) 研究視察

北海道開拓の村

2 夏期研究協議会(製図分科会主催)

内 容：「JW-CADの基本操作の体験と授業への活用」

期 日：平成10年8月4日(火)～5日(水)

会 場：千葉県立市川工業高等学校

千葉県市川市平田3-10-10 (Tel 047-378-4186)

3 理事会・委員会等

会の構成

1) 理 事 会：全役員、県理事で総会開催日に年一回の開催予定

常任理事会：全役員、常任理事で年3回～4回開催予定

2) 主 査 会：会長、副会長、分科会主査、事務局長、会計

3) 各分科会：分科会主査の召集により随時

4) 各委員会：委員長の召集により随時

役員、委員の名簿は別紙

5) 特別委員会

50周年記念事業特別委員会：委員長の召集により随時

栃木県大会に向けて準備を進める。

記念講演、記念誌の発行等を実施する予定

4 刊行物

建築教育ニュース 1998年号(11月発行予定)

会員名簿発行(6月発行)

各種参考書

5 製図コンクール(第17回) 作品受付 平成10年11月5日(木)～10日(火)

詳細は各校に配布済

6 その他 関係諸団体との連絡調整

以上

—平成10年度 予 算—

平成10年4月1日

会長 北 島 敬 己
 会計 事 務 局

1. 収 入 額

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	924,000	154校分 (6,000円×154校)
雑 収 入	50,453	助成金、利息
印 税	130,000	基礎問題、図集、法規学習ノート等
繰 越 金	121,547	平成9年度繰越金
合 計	1,226,000	

2. 支 出

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事 業 費	900,000	
総 会 費	280,000	総会補助、協議会補助、本部経費等
資 料 費	240,000	総会資料、ニュース等印刷費
講 習 会 補 助	60,000	夏期講習会 (製図) 補助
出 張 補 助 費	120,000	西日本、北海道出張補助
分 科 会 費	200,000	4分科会・1委員会 各40,000円
2) 運 営 費	295,000	
役 員 会 議 費	15,000	理事会、主査会等
通 信 費	140,000	総会通知、ニュース発送通信費等
雑 費	10,000	事務用品代
事 務 費	10,000	事務局運営費
名 簿 費	120,000	名簿作成費 (不足分は広告費で支出)
3) 予 備 費	31,000	
4) 合 計	1,226,000	

—平成10年度 役員名簿—

- | | | | |
|-----------|------------------------|----------------------|-------|
| 1. 会 長 | 東京都立蔵前工業高等学校 | 校長 | 北島 敬己 |
| 2. 副 会 長 | 北海道室蘭工業高等学校 | 校長 | 吉谷 啓一 |
| | 秋田県立大曲工業高等学校 | 教諭 | 三浦 春夫 |
| | 東京都立蔵前工業高等学校 | 教諭 | 土田 裕康 |
| | 神奈川県立神奈川工業高等学校 | 教諭 | 山崎 敏弘 |
| 3. 事務局長 | 東京都立蔵前工業高等学校 | 教諭 | 堀内 仁之 |
| 4. 会 計 | 東京都立蔵前工業高等学校 | 教諭 | 大橋 正俊 |
| 5. 会計監査 | 神奈川県立神奈川工業高等学校 | 教諭 | 角田 勝男 |
| | 東京都立葛西工業高等学校 | 教諭 | 前田 潔 |
| 6. 常任理事 | 北島 敬己 (会長) | 吉谷 啓一 (副会長・室蘭工) | |
| | 三浦 春夫 (副会長・大曲工) | 仲田 治喜 (校長・鶴見工) | |
| | 曾我 亮二 (校長・高崎工) | 稲葉 一八 (校長・春日井工) | |
| | 土田 裕康 (副会長・蔵前工) | 山崎 敏弘 (副会長・神奈川工) | |
| | 菊池 貞介 (製図主査・市川工) | 大庭 孝雄 (計画主査・小田原城北工) | |
| | 本間 正明 (構造主査・田無工) | 内藤美雪丸 (施工主査・日工大付東京工) | |
| | 大間 俊彦 (編集委員長・関東第一) | 佐藤 哲 (教材委員長・市川工) | |
| | 長島 佳久 (資格取得推進委員長・春日部工) | 池上 信幸 (東京・葛西工) | |
| | 奥田 幸司 (東京・小石川工) | 田辺 登 (東京・昭和第一学園) | |
| | 小沢 宏 (東京・墨田工) | 遠藤 勇 (東京・日工大付東京工) | |
| | 塩澤 泰 (東京・関東第一) | 千葉 一雄 (東京・東工大附工) | |
| | 遠山 時幸 (東京・安田学園) | 鈴木 豊 (千葉・敬愛学園) | |
| | 本田 友一 (埼玉・川越工) | 増渕 政幸 (栃木・宇都宮工) | |
| | 小池 逸朗 (山梨・甲府工) | 田口 学 (神奈川・向の岡工定) | |
| | 井口 健 (北海道・室蘭工) | 江原 哲二 (群馬・藤岡工) | |
| | 平野 和成 (静岡・島田工) | 松井 貞二 (全高建協・蔵前工) | |
| | 大橋 正俊 (会計・蔵前工) | 堀内 仁之 (事務局長・蔵前工) | |
| 7. 都道県理事 | | | |
| | 北海道 井口 健 (室蘭工) | 北海道 奥野 繁 (苫小牧工) | |
| | 青 森 伊藤 勝敏 (弘前工) | 秋 田 高橋 義則 (大曲工) | |
| | 岩 手 高橋 勝吉 (盛岡工) | 山 形 深瀬 光昭 (山形工) | |
| | 宮 城 鈴木 修一 (古川工) | 福 島 矢吹 二良 (郡山北工) | |
| | 栃 木 増渕 政幸 (宇都宮工) | 茨 城 辻 昌良 (大宮工) | |
| | 群 馬 豊島 卓司 (前橋工) | 埼 玉 香山 厚雅 (春日部工) | |
| | 千 葉 鈴木 豊 (敬愛学園) | 東 京 堀内 仁之 (蔵前工) | |
| | 神奈川 田口 学 (向の岡工定) | 山 梨 藤卷 嘉久 (甲府工) | |
| | 長 野 北沢 健 (長野工) | 新 潟 景山 常樹 (新潟工) | |
| | 富 山 安川 省司 (富山工) | 石 川 久坂 哲治 (小松工) | |
| | 福 井 橋本 和之 (武生工) | 静 岡 平野 和成 (島田工) | |
| | 愛 知 林 良永 (愛知工定) | 岐 阜 町野 康彦 (岐南工) | |
| 8. 各分科会委員 | | | |
| 1) 製図分科会: | 主査・菊池 貞介 (市川工) | | |
| | 土田 裕康 (蔵前工) | 福島 勝 (日工大付東京工) | |
| | 塩澤 泰 (関東第一) | 筒井 斉 (向の岡工) | |
| | 古賀 昌之 (墨田工) | 角田 勝男 (神奈川工) | |
| | 長島 佳久 (春日部工) | 金井 孝雄 (高崎工定) | |
| | 小沢 宏 (墨田工) | 増渕 政幸 (宇都宮工) | |

- 橋本 政美 (昭和第一学園) 諏佐 真一 (小石川工定)
- 2) 計画分科会： 主査・大庭 孝雄 (小田原城北工)
- 中西 章 (東工大附工) 大間 俊彦 (関東第一)
- 大橋 正俊 (蔵前工) 池田 健司 (大宮工定)
- 田中 良司 (川越工) 荒木 宏道 (館林商工)
- 酒巻 仲生 (葛西工) 岩上 成輝 (川崎総合科学)
- 中島 久男 (横浜工定) 高崎 和久 (藤沢工)
- 江口 敏彦 (市川工)
- 3) 構造分科会： 主査・本間 正明 (田無工)
- 青柳 昭 (市川工) 松井 貞二 (蔵前工)
- 栗原 博 (墨田工定) 榎本 吉晃 (安田学園)
- 亀山 和由 (関東第一) 西村 文雄 (川越工)
- 益野 英昌 (仙台第二工) 福住 英毅 (神奈川工)
- 斉藤 延夫 (宇都宮工) 今井 賢治 (前橋工)
- 雨宮 行光 (甲府工) 川崎 道夫 (墨田工)
- 大久保 健 (田無工)
- 4) 施工分科会： 主査・内藤美雪丸 (日工大付東京工)
- 堀口 武 (武蔵越生) 小池 逸朗 (甲府工)
- 佐藤 克典 (神奈川工定) 千葉 一雄 (東工大附工)
- 塩山 昇 (熊谷工) 高橋 康宏 (田無工)
- 山崎 敏弘 (神奈川工) 田島 昇 (大宮工)
- 丸山 悟 (葛西工) 小嶋 計一 (宇都宮工)
- 田辺 登 (昭和第一学園) 飴谷 知久 (安田学園)
- 伊藤 彰人 (鶴見工定)
9. 教材委員会： 委員長・佐藤 哲 (市川工)
- 土田 裕康 (副会長) 山崎 敏弘 (副会長)
- 菊池 貞介 (製図主査) 大庭 孝雄 (計画主査)
- 本間 正明 (構造主査) 内藤美雪丸 (施工主査)
- 堀内 仁之 (事務局長)
10. 編集委員会： 委員長・大間 俊彦 (関東第一)
- 遠藤 勇 (日工大付東京工) 鈴木 健 (葛西工)
- 古賀 昌之 (墨田工) 菊池 貞介 (市川工)
11. 製図コンクール運営委員会： 委員長・土田 裕康 (蔵前工)
- 塩澤 泰 (関東第一) 古賀 昌之 (墨田工)
- 筒井 斉 (向の岡工) 福島 勝 (日工大付東京工)
- 角田 勝男 (神奈川工) 菊池 貞介 (市川工)
- 金井 孝雄 (高崎工定) 長島 佳久 (春日部工)
- 小沢 宏 (墨田工) 橋本 政美 (昭和第一学園)
- 増渕 政幸 (宇都宮工) 諏佐 真一 (小石川工定)
- (計画) 大間 俊彦 (関東第一) 岩上 成輝 (川崎総合科学)
- (構造) 雨宮 行光 (甲府工) 今井 賢治 (前橋工)
- (施工) 伊藤 彰人 (鶴見工定) 田辺 登 (昭和第一学園)
12. 資格取得推進委員会： 委員長・長島 佳久 (春日部工)
- 土田 裕康 (副会長) 山崎 敏弘 (副会長)
- 堀内 仁之 (事務局長) 菊池 貞介 (製図主査)
- 大庭 孝雄 (計画主査) 本間 正明 (構造主査)
- 内藤美雪丸 (施工主査) 高橋 義治 (市川工)
- 三原 斉 (日工大付東京工) 石井 直樹 (高崎工)
- 松井 貞二 (全高建協・蔵前工)

4. 平成10年度 総会・研究協議会報告

北海道札幌工業高等学校 沼田 勲

平成10年度東日本建築教育研究会総会・研究協議会が6月11日～12日の2日間にわたり、札幌市「ホテル・ライフオーツ札幌」を会場として、文部省教科調査官をはじめ来賓・会員合わせ、200名におよぶ参加により盛大のうちに開催された。

1日目 午前中理事会、午後総会が開催され、稲澤義泰（大会実行委員長）、北島敬己（会長）、吉谷啓一（北海道建築教育研究会会長）各氏の挨拶に始まり、大会実施要項に従い議事案件が審議され承認された。

研究協議会・分科会では、共通テーマ「厳選に伴う学習指導法」——標準単位に対する授業内容・展開——について。主に製図分科会では製図の指導現場における問題事例と対応策。計画分科会では新教育課程の編成を念頭に建築計画の最低履修単位を2単位と見定めた授業展開。構造分科会では「建築構造」「建築構造設計」必要最小限指導内容の検討および指導目標の検討、施工分科会では「建築実習」に関する教育課程および内容例、「建築施工実習」の学習指導例についてそれぞれ熱心な協議がなされた。

夕食会では、和やかに建築教育の情報交換など大いに親睦がはかられ1日の日程を終了。

2日目 全体会では、研究発表「北海道の建築教育」と題し札幌工業高校 高崎 格（昭和初期の建築教育に関する研究）、室蘭工業高校 山本悦徳（北海道の地域に根ざした工業高校）、札幌工業高校 伊藤茂樹（科目「建築計画」の展開とその考察）の題目で各氏の発表があった。

つづいて分科会報告、製図主査（菊池貞介・市川工業）、計画主査（大庭孝雄・小田原城北工業）、構造主査代理（大久保 健・田無工業）、施工主査代理（堀口 武・武蔵越生）の各氏より、前日からの協議内容のまとめと分科会の年間活動内容について報告があった。

つづいて、文部省教科調査官佐藤義雄氏の講話では新しい教育の枠組み、学習指導受領、総取得単位数、資格取得等々新しいカリキュラム編成に伴う内容で、要約については後記する。

閉会式では会長北島敬己氏から最後に参加者へねぎらいの中で、全工高協理事長山下省蔵先生からの伝言ということで紹介があった。「4分科会共参加者各人が研究資料を持ちより、熱心に深い協議をされていることに感動した。すばらしい大会であったことを参加者の皆様には是非伝えてほしい。」と結び、2日間の協議を閉じた。

午後は最後の研究観察に入り、北海道開拓の村へバス3台で伺った。出発時は生憎の小雨であったが現地では少々肌寒いものの心配された雨もなく、参加者は精力的に見学され、予定通り全日程を終えることができました。ここに大会の進行に対して、参加者の皆様に絶大なるご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

第48回 東日本建築教育研究会北海道大会実施要領

期 日 : 平成10年5月11日(木)～12日(金)

会 場 : 『ホテルライフオート札幌』 札幌市中央区南10条西1丁目

第一日目 6月11日(木)

理事会受付 …………… 9:30～10:20

理 事 会 …………… 10:30～12:00

来賓・会員受付 …… 12:00～12:50

1 開会式 …………… 13:00～13:50

(1) 開会のことば	北海道大会実行副委員長	
(2) 挨拶	北海道大会実行委員長	稲澤 義泰
	東日本建築教育研究会会長	北島 敬己
	北海道高等学校建築教育研究会会長	吉谷 啓一
(3) 来賓祝辞	文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官	佐藤 義雄
	北海道教育庁生涯学習部高校教育課長	三浦 秀雄
	社団法人 全国工業高等学校長協会理事長	山下 省蔵
	西日本工高建築連盟会長	小林 俊司
(4) 来賓祝辞	北海道産業教育振興会会長	佐藤 三男
	北海道の工業教育を推進する会会長	吉野 祐夫
	北海道建設部建築整備室計画調整課長	松橋 征夫
	社団法人 北海道建設業協会会長	伊藤 義郎
	社団法人 日本建築学会北海道支部長	井野 智
	社団法人 日本建築家協会北海道支部長	秋山 孝
	社団法人 北海道建築士会会長	眞木 光哉
	社団法人 北海道建築士事務所協会会長	鉄川 昭
(6) 閉会の言葉	北海道大会実行副委員長	

2 総会 …………… 14:00～15:20

(1) 開 会

(2) 議長選出

(3) 議 事

ア. 平成9年度事業報告並びに会計報告

イ. 会計監査報告

ウ. 役員改選

エ. 平成10年度事業計画並びに予算案

オ. その他

(4) 各委員会報告

(5) その他

(6) 本部事務局諸連絡

(7) 閉 会

3 研究協議会 I (分科会) …………… 15:30～17:00

共通テーマ: 「厳選にともなる学習指導法」

——標準単位に対応する授業内容・展開——

製図分科会・計画分科会・構造分科会・施工分科会

4 夕食会 …………… 18:30～

第2日目 6月12日(金)

1 研究協議会 II (全体会) …………… 9:00～10:30

(1) 研究発表 …………… 9:00～9:40

I 北海道札幌工業高等学校 高崎 格

北海道の建築教育 II 北海道室蘭工業高等学校 山本 悦徳

III 北海道札幌工業高等学校 伊藤 茂樹



開会式 北島敬己会長



総 会

- (2) 分科会報告 9:50~10:20
 2 講 評 10:30~10:50
 文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官 佐藤 義雄
 3 閉 会 式 11:00~11:30
 (1) 会長挨拶 東日本建築教育研究会会長 北島 敬己
 (2) 次期開催県代表挨拶
 秋田県立大曲工業高等学校長 三浦 春夫
 (3) 開会の言葉 北海道大会実行委員長 稲澤 義泰
 4 諸連絡・昼 食 11:30~12:10
 5 研究視察 12:20~15:30



研究協議会（全体会）

出発12:20 13:00 集合14:30・出発14:40 15:00 15:30
 ホテル ~~~~~ 開拓の村（自由見学） ~~~~~ 新札幌駅 ~~~~~ 札幌駅

6 解 散 札 幌 駅 15:30 [北海道開拓の村：札幌市厚別区小野幌50]

文部省教科調査官佐藤義雄氏講和要約

- 現学習指導要領は教科目の単位を上限・下限を示しているが、単位に応じた内容を明記したい。進学者と資格取得者が同一内容で良いわけがない。
 - 教育の枠組み
 - ・飛び級は高校2年終了後であるが卒業証書は出ない。
 - ・定時制で80単位を3年で取得すれば卒業できる。
 - ・クラブを廃止、HR 4単位が含まれ80-4=76最終的には74単位になりそう。
 - ・普通科目は2単位科目をおく。
 - ・普通科目の単位数は35単位+英語4単位→26~27単位ぐらいで、+情報（必修）+総合学習（必修）を合わせると32単位ぐらいとなる。
 - ・工業の場合、情報は→情報技術基礎、総合学習は→課題研究で代替できる。従って専門科目の単位はいかようにもできる。
 - ・総合学習は5~1の評定はしない。
 - ・工業は理産審の中間まとめで25~28単位→25単位になるであろう。
 - ・工業高校のカリキュラムでは、実習を中心としたカリキュラムを編成し、生徒がどういうところで働くか視野に入れ、実習を工業の中心とすべきで、世の中のニーズと離れてはならない。
 - ・現行は、普通科目：専門科目=6：4→5：5にすることを考えてもよいし、あるいは普通1/3、専門1/3、自由選択1/3でもよい。又これを一律にせず、生徒によって違ったり、弾力的な運用でよい。
 - ・原則履修科目は大幅にメスを入れたい。原則履修科目は2科目で情報と総合学習とする。
 - ・工業科目の単位数は普通科目が全て2単位である以上、工業基礎、工業数理など工業も2単位となる。
 - ・中教審（教科 — 学科再編）40人学級でも実質は10人位で実施している。即ち工業は20人を前提としている。
 - ・資格 2級建築士の取得であれば 普通科から専門学校に進むのが近道である。工業はペーパードライバであってはならない。人をいたわる安全運転のできるドライバーとして、実力と資格の持つ人間の育成でありたい。
 - ・施工技術者試験制度の継続には、3割の合格率を3年間は継続することが必要で今後も積極的に取り組ませてほしい。
- 以上講話の要約を記した。



佐藤義雄教科調査官

5. 夏期研究協議会に参加して

宮城県古川工業高等学校 建築科教諭 中鉢 紀男

今年も暑い時期、平成10年度「東日本建築教育研究会夏期研究協議会」の案内を頂いた。8月4日、5日の2日間千葉県立市川工業高等学校建築科に於いて行われると言う。実は、毎年この期の「研究協議会」はほとんど施工関係の内容で実施されていた。

文書の中味を見ると、やはりこれも時代の波かな～などと自分を納得させ？参加を決めた。実はそれもその筈コンピュータによる『JW-CAD』の実技実習研究会でした。

7、8年前になると思いますが本校建築科でも“情報技術基礎”をカリキュラムに組み込まれる時期でした。どこでどんなふうの実施しようかと話し合いを続けていた時、更にやっかいな!? “課題研究”もやらねばと言う時期でもありました。とりあえず移行時期でもあるので、「CAD」は3年の製図の後半の終わり、つまり3学期に実施することに落ち着いた。とにかくこれも時代が時代、入社してぜんぜん触ったこともない。「CAD」ってなになの!?。見た事もない。触った事もない。それどはあまりにも可愛そうなことになる。自動製図機器なんだヨ!!……。初歩程度でも良いから触らせよう!。手書き製図が書いて、尚且つ十分図面を理解出来ることが大前提であること。先ず触れさせる事から始めることにした。見よう見まねで「CAD」に手をつけたのが実は小生でした。

勿論自慢することではない。満足、納得がいくものではありませんでした。何せそれまでコンピュータを「コンピィータ」と言う風に、いわゆる自分には解らない、出来ない、触れることはないと妙な自信と確信!?を持っていたのだったから……。が、そうも言ってもらえない時代背景になっていた。そんな経緯もあって、先ずは触れることから勉強してみよう!!。しなくてはいけないと考え方が変わってきた。それが「CAD」との出合いでした。CADを操作してもコンピュータの知識がないと色々な専門用語が解らない!。余りにも“シャク”なので自宅にデスクトップ型のパソコンを入れ勉強し始めた。50の手習い!?!。無論、WINDOWSは2、3年後になるとの情報誌、ウソツキ~!!翌年出るではないか。失望したものでした……。

今回の参加希望した実技実習の「JW-CAD」は、おそらく『DOS-V機』になるんだろうなあ~……。などと想いにふけつつ車景を眺めていると、新幹線は東京駅に静かに滑り込んだ。

娘のところの前泊、新幹線を降りたら梅雨があけない冷夏の古川とは違って“モア~”と熱風が全身に覆いかぶさる。何んだ~この暑さは~。とうとう東京に来てしまったのかとあらためて明日からの実技実習研究会が思いやられる……。

37年前に東京に1年間だけ住んだ事があると言っても、来る度に変貌してしるな~。電

車を乗り継いで自由ヶ丘へと向かう。駅構内を歩いてても電車に乗っても“人、人、”そして「電車の中でも、歩いていても、店の中でも私には無用の“ピー、ピー”と容赦なく奏でる携帯電話」。当地古川にも携帯電話なるものはかなり普及はしているが、人が多いせいもあってか私には何か異様に映る。またまた一步進んだ!?東京砂漠に来てしまったな〜などと変な関心をしてしまった。

8月4日（火）研究会初日

東日本建築教育研究会会長の挨拶、会場校校長挨拶、事務局挨拶、講師・スタッフ紹介、日程・概要の説明があり早速パソコンの電源を入れ、自分のパソコンの隣のゼミ用の画面を見ながらの研修Ⅰが始まる。「平屋建専用住宅設計図」の作成方法でした。グループ・レイヤーの設定。グループ0（青）を右クリックと、グループF右クリックと枠表題の設定、用紙大きさA-3の設定、（S）スケール1/1、……と進み、右クリックする毎に青色に変化と平面図作成に着々と進んだ。右クリックする毎に青色に変化する毎に、はは〜……またまた前に手がけた苦い思い出の!?「H社のCAD」が頭を震める。今回参加実技実習した「JW-CAD」は、MS-DOSで動作するものでした。但し小生が初めて手がけた時のとは違ってかなり優秀なマシン、ソフトでした。

私手がけたそのマシンたるものは、あまり思い出したくもないがH社のもので、私がコンピュータの知識がないせいもあって、まして解らない人が教えるのだから当然ながら思いどおりなど動くはずがない。2人の先生の応援をいただきながらも20人の生徒を相手に悪戦苦闘したのを思い出しながら……。そのマシンたるものはマウスボタン3コあり、その都度どのボタンか!?と悩み悩み選んだことが鮮明に脳裏をよぎる。そんな事を思いながら、今回の実技実習研究会に臨んでいた。

とにもかくにも壁、建具の描き方、部品（流し台）の取り入れ方、台所・居間にハッチの入れ方、訂正（修正）の方法など、約5時間に及ぶ初日の実技実習の研究会を終えた。

8月5日（水）研究会最終日

前日の復習から入り、扉の入れ方、部屋名、表題覧を記入し、図面の出来上がり、最後にWINDOWS対応の『ドラ・キャド』のデモがあり、スクリーンを眺めながら（これではなくては時代錯誤?）。幸い当建築科では、この『CAD』に移行して5年になる。設備等に恵まれているな〜と思いつつ。

市川工業高等学校建築科の先生方、事務局の先生方、準備そして何かと色々と心温まるお世話と気配りありがとうございました。特に、市川工業高等学校の机間巡視をしてくれたインストラクターの生徒さん達ご苦勞様でした。いい生徒さんでした。（雑感）

6. 製図分科会報告

千葉県立市川工業高等学校 菊池 貞介

職業教育をとりまく厳しい見通しが印象に強かった平成9年度の長野大会を終え、建築教育に一層の新たな取組を求められる中に本年度を迎えました。製図分科会では、前主査古賀先生（墨田工）のご指導を仰ぎながら、製図教育に関する諸課題の研究協議を進めてきました。以下に昨年9月からの活動概要を報告いたします。

平成9年10月15日（水）平成9年度第3回委員会

- ・長野大会研究協議会の報告および今後の研究テーマについて
- ・第16回製図コンクール運営委員会に協力、作品の受付業務と第1次審査を実施

平成9年10月20日（月）第4回委員会 コンクール作品の2次審査、入賞作品に決定

平成9年11月13日（木）第5回委員会 共通テーマ「厳選に伴う学習指導法」について、委員校での状況を意見交換。新たな方向を探る。

平成9年11月28日（金）第6回委員会 コンクール入選の集計及び賞状等発送業務

平成10年1月22日（木）第7回委員会 次年度コンクール課題について検討。製図の単位数が減少傾向にあり到達目標にも差異が生じているため研究テーマの再検討を行う。

平成10年2月16日（月）第8回委員会 検討の継続及び夏季研究協議会案を協議

平成10年3月4日（水）第9回委員会

- ・共通テーマに関する分科会の研究協議内容について…「1年生または製図に取り組む初年度生について、問題事例とその対応策」を取り上げることにする。
- ・平成10年度CAD製図作品展の実施要項について…第3回に向けて実施を決める
- ・夏期研究協議会（担当：製図分科会）の内容を「CAD実技講習」に決定

平成10年5月14日（木）平成10年度第1回委員会

- ・製図分科会研究協議会テーマ「製図の指導現場における問題事例と対応策」

委員校の事例研究報告のまとめと資料作成を行う。また、北海道大会の分科会参加者の積極的な発言と全員の意見交換を望み参加予定者へのアンケート形式の事例報告書作成を依頼した。この資料を参加者全員に配布するよう印刷したものを持ち寄り、当日の協議会にて取り上げるとともに後日の活用を願うこととした。

平成10年6月11日（木）、12日（金）第48回北海道大会 研究協議会〈製図分科会〉及び第3回CAD製図作品展を開催

製図分科会は前記のテーマにて、第一日目午後3時より2時間を越える活発な協議が展開された。参加者も当初予定を越えて70数名となった。

司会：角田（神奈川工）増渕（宇都宮工）、記録：古賀（墨田工）長島（春日部工）

- ・概要 前主査古賀先生より分科会の継続研究の要旨を含めた挨拶の後、今年度の研究テーマと資料（「平成9年度アンケート調査より」）に掲載の「製図」の履修形態や到

達目標の傾向などについて主査菊池より説明を行い協議に入った。

先ず、委員校の事例が小沢委員（墨田工）、橋本委員（昭和第一）、長島委員よりなされ問題提起された。続いて参加者が持ち寄った資料の中から特徴的な例の各校を指名し報告を願った。なお、事例対象は建築製図を学習する初年度生について取り上げるものとした。協議の主な流れとして、唐沢先生（鶴見工定）から製図に興味を持っていない生徒の存在について発言があり、これを受けて土田先生（蔵前工）からLD（学習障害児）の研究を進めている塩澤委員の代理として報告がなされた。なおLDについては、職業教育全般にわたる課題でもあり、今後研究題材として取り上げる機会を是非持ちたい。主に生徒の特質に関して岩井先生（高岡工芸）、杉澤先生（留萌千望）より、またコース選択制に伴う製図指導者の問題についても佐伯先生（北見工）、酒井先生（向の岡工）から報告がなされた。北海道の概況も含めて高崎先生（札幌工）より、指導上の改善に関して金井先生（飯田長姫）、建築学会の動向も含めて加倉井先生（敬愛学園）らから具体的な報告がなされた。このほか各地域の先生方より数多くの発言があり、指導現場での問題意識の共有化が図られるとともに対応策に関する具体的な工夫の意見交換が見られ大変有意義な分科会協議となった。

- ・CAD製図作品展…第3回目となった作品展には、新たに参加した学校も含め参加9校、全19点の出品となり、各校のCAD製図担当の先生方の関心の高さと応用展開への熱意が伝わってきた。作品は総会会場内に展示され北海道の手書き製図作品と並べられ注目を集めた。出品一覧を別頁に掲載し今後の更なる進展を期待します。

平成10年7月8日（水）第2回委員会

- ・大会での研究協議会の報告と今後の課題について。・「建築基礎問題集」編集協力。
- ・夏季研究協議会の実施要項等準備活動について。・参加者への事前アンケートを実施。

平成10年7月24日（金）8月3日（月）第3回、4回委員会 夏期研究協議会準備

平成10年8月4日（火）、5日（水）平成10年度 夏期研究協議会CAD実技講習

「JW-CADの基本操作の体験と授業への活用」を開催。北海道から愛知県まで参加者45名、塩澤講師（関東第一）及び協力スタッフの職員・生徒（市川工）を含め70数名が参集した。当初、初心者を対象としながらも経験者も多く進度に差が生じた一面もあったが、概ね好評でCAD製図の今後の進展を強く印象づけるものとなった。

平成10年9月8日（火）第5回委員会

- ・夏期研究協議会のまとめ アンケートからCAD実技研修の継続とCAD製図コンクール開催の要望を取り上げ検討課題とする。
- ・次年度の共通テーマ「21世紀の建築教育のあり方」を受けて分科会での研究方針を討議する（キーワード：設計+製図教育の充実、インターネットの応用、創造的な製図教育）。

※※単位数の減少にありがちなが、各校とも「製図」のレベル維持のための工夫が随所になされ、建築教育の要としていることを掴み委員一同意を強く致しました。今後も皆様の一層のご助言をお願いし、次年度のテーマに向けて協議を重ねて行きたいと思っております。

平成10年度 C A D製図作品一覧

東日本建築教育研究会製図分科会C A D小委員会

学 指 導 担 当 者 名	名 校	名 者 名	課 程	学 科 ・ コ ー ス	学 年	氏 名	作 品 名	使 用 ソ フ ト	制 作 時 間	実 施 科 目	コ メ ン ト (デ ー タ 票 よ り)
群馬県立前橋工業高等学校 今井賢治、牧口政昭		向後 仁志	全日制	建築科	3	向後 仁志	台形敷地に建つ専用住宅(卒業設計)	JW-CAD	約2カ月	建築製図	敷地形状へのプランニングの工夫
埼玉県立春日部工業高等学校 香山厚雅、長島佳久		山崎 一幸 鈴木 里織	全日制	建築科	2 3	山崎 一幸 鈴木 里織	CADによるデザイン 住宅平面図	JW-CAD JW-CAD	約1カ月 約1カ月	授業外自主課題 課題研究	フリー描画 自主設計
千葉県立市川工業高等学校 菊池貞介、大久保亘		新野尾 孝二 森 拓也	全日制	建築科	3 3	新野尾 孝二 森 拓也	Try Heart Museum	Archit-TREND11 Vers. Archit-TREND11 Vers.	約4カ月 約4カ月	実習+課題研究 実習+課題研究	都市型展示施設 CADをスケッチブック 並に使いこなしていた
千葉経済大学附属高等学校 鈴木康夫		浅海 義徳 高橋 章郎	全日制	建築科	3 3	浅海 義徳 高橋 章郎	2階建専用住宅設計図 2階建専用住宅設計図	WH-CAD WH-CAD	約9ヶ月 約9ヶ月	建築設計製図 建築設計製図	
昭和第一学園高等学校 門田喜久治、土方 茂		山角 守仁 角 さと子	全日制 全日制	建築システム科 建築コース 建築科	2 2	山角 守仁 角 さと子	木造専用住宅設置図 木造2階建専用住宅	日建CAD 日建CAD	約4カ月 約4カ月	実習(設計実習) 実習(設計実習)	短時間で図面完成、立体的なデザインの勉強に逸
関東第一高等学校 植澤 泰		酒井 茂之 佐藤 哲哉	全日制	建築科 デザイン コース	2 2	酒井 茂之 佐藤 哲哉	平屋建専用住宅設計図(軸組図) YACAL中湖CABINHOUSE (第23回高校生コン)	JW-CAD JW-CAD	約0.5月 約3ヶ月	製図 製図	立面図と重ねて理解させる 出力後手書きで着色
神奈川県立藤沢工業高等学校 大西堅司、加藤良一 高崎和久、佐藤 剛		石井 直行 今井 誠 杉山 勇介 吉田 真人 原 亮一	全日制	建築科 建築コース	3 3 3 3 3	石井 直行 今井 誠 杉山 勇介 吉田 真人 原 亮一	木造平屋建専用住宅 木造2階建専用住宅 木造2階建専用住宅 木造2階建専用住宅 木造2階建専用住宅	DRA-CAD2 JW-CAD Archit-TREND11 JW-CAD Archit-TREND11 JW-CAD Archit-TREND11 JW-CAD Archit-TREND11	約2カ月 約8カ月 約8カ月 約8カ月 約8カ月	実習 課題研究(2単位) 課題研究(2単位) 課題研究(2単位) 課題研究(2単位)	中心点の取り方・出窓に朝時間 立・断面・パースはArchit- TREND
新潟県立高田工業高等学校 松田哲彦		田中 智子 古澤・松井・ 小杉・坂本	全日制	建築科	3 3	田中 智子 古澤・松井・ 小杉・坂本	住宅設計 天崇寺実測及び模型	JW-CAD JW-CAD	約3カ月 約4カ月	課題研究 課題研究	2.5Dの理解困難の様子 実測データ担当者提供多し
岐阜県立大垣工業高等学校 恩田一光、豊田陽一郎		石黒玲男・ 藤瀬友彦・ 村木克利	全日制	建築工学科 建築類型	3	石黒玲男・ 藤瀬友彦・ 村木克利	大垣市情報工房・岐阜県マルチメディア 共同研究センター	Auto CAD (ADE3)	約9カ月	課題研究	提供図面を汎用CADで 取組んだ

7. 計画分科会報告

神奈川県立小田原城北工業高等学校 大庭 孝雄

計画分科会では、一昨年（平成8年）の『建築法規の学習ノート』の刊行をもって、「建築法規の学習指導法」をテーマとする一連の研究を区切りといたしました。昨年（平成9年）には建築史の学習指導法についての検討と、建築計画の厳選に伴う学習指導法について研究協議いたしました。昨年の長野大会では、委員会としての提言にまとめ、研究協議のより所として提示いたしました。協議のあらましにつきましては、昨年、秋の「建築教育ニュース」に掲載ご報告申し上げます。

さて、平成9年度には、8年度の研究をさらに進めて、標準単位数に対応する「建築計画」の授業内容や展開方法についての検討を進めました。

具体的には、2002年以降の新教育課程の編成を念頭に、建築計画の最低履修単位数を2単位と見定め、建築史、原論、各論、設備の内容をどの程度、授業に組み込み展開できるか、また、指導のポイントをどこにおくかといった点に着目して、委員会で協議いたしました。

10年度の北海道大会では、「2単位履修の場合の指導内容（厳選に伴う内容の整理）」を踏まえた、現行の教科書に基づく、授業展開にどのような工夫が考えられるか、委員会の提言として一例を提示いたしました。

研究協議会では、委員会の提示した『建築計画2単位履修に対応する授業展開の一例』をよりどころに、建築計画の内容を如何に厳選すべきか、2単位履修とする場合、如何なる授業内容・展開ができるか意見交換しました。

協議会といたしまして、委員会の提示いたしました骨子に大方の賛同が得られ、方向性に一応の結論を得ることができました。

また、協議を進めるなかで、建築計画の授業展開のありかたや資格取得にかかわる問題など、貴重なご意見も数多く出されました。

ここでは、研究協議会での委員会の提言や主たるご意見の骨子をご紹介します。計画分科会の報告とさせていただきます。

[1] 委員会提言『建築計画2単位履修に対応する授業展開の一例』

教科書の第1章から5章までを最低履修単元として、必要に応じて第7章と第8章のあらましにふれる展開例です。

- 基本的には、第1章の計画の概要を導入として、第2章の建築史、第4章の住宅、第3章の原論、第5章の集合住宅の順序で授業を展開する。
- 第4章の住宅の計画では、敷地の計画に関連づけて第7章の都市計画の概要を紹介。また設備の計画で第8章の建築設備の計画のあらましにふれる。

各論では住宅、集合住宅、事務所のなかから住宅と集合住宅をとりあげ、相互に関連づけることによって効率の良い授業展開ができることがねらいです。

—建築計画 2 単位履修に対応する授業展開の一例—（北海道大会提示資料より）

第 1 章 建築計画の概要	1. 建築計画の意義	1. 建築物の役割 2. 建築物に影響を与える要素 3. 建築計画の内容
	2. 建築計画の進め方	1. 条件のとらえ方 2. 計画の立案と進め方

●導入の内容にとどめて、具体的には、第 4 章「住宅の計画」で解説する。第 4 章と重複する内容を効率的に授業展開する。

●3. 「建築の空間と造形」は他教科（工業基礎等）で扱ってはいかがか。

第 2 章 建築の移り変わり	1. わが国の建築	1. 住宅建築
----------------	-----------	---------

●日本の住宅の歴史にふれて、第 4 章「住宅の計画」の導入とする。明治以降の住宅についての解説が不足するので、現代の住宅について補足する。

●2. 「西洋の建築」、3. 「近代の建築」、4. 「現代の建築」は、2 単位のなかで扱うのは難しい。

第 4 章 住宅の計画	1. 住宅の意義	1. 住宅の目的 2. 住宅の種類
	2. 全体計画	1. 敷地計画 2. 配置計画 3. 平面計画 4. 設備計画
	3. 各部の計画	1. 寝室 2. 居間、食事室 3. 台所 4. 便所、浴室、洗面所 5. 家事室 6. 玄関、廊下、階段 7. 納戸、押入

●1. 「敷地の計画」で第 7 章・1 「都市計画の概要」について紹介する。とくに、都市計画と建築制限の概要を解説する。

●3. 「平面計画」に、「3. 各部の計画」の内容ももりこんで、効率的な授業展開が

望ましい。

- 4. 「設備計画で第8章「建築整備の計画」のあらましを、住宅の設備と関連づけて解説する。

第3章 建築物の内外の環境	1. 気候	2. 日照と日射	3. 採光と照明
	4. 換気と通風	5. 電熱	6. 音響

- 「実習」など他の教科に、専門的な学習を委ねる。
- 住宅の計画に役立つ知識（身近な結露から熱貫流など）について要約する。

第5章 集合住宅の計画	1. 集合住宅の意義	1. 集合住宅の意義
	2. 全体計画	2. 集合住宅の種類
	3. 各部の計画	1. 調査・検討項目
		2. 敷地計画
		3. 配置計画
		4. 平面計画
		5. 設備計画
		1. 寝室、居間
		2. 食事室、台所
		3. 便所、浴室、洗面所
		4. パルコニー

- 2. 「全体計画」で、第7章 3. 「住宅地の計画」のあらましを解説する。

◎第6章『事務所の計画』 : 2単位のなかで扱うのは難しい。「製図」と関連づけてふれる。

◎第7章『都市と地域の計画』 : 2単位のなかで扱うのは難しい。第4章、第5章で関連する内容のあらましを扱う。

◎第8章『建築設備の計画』 : 2単位のなかで扱うのは難しい。第4章で住宅の設備と関連づけてあらましを扱う。

[2] 研究協議会での主たる意見

(1) 委員会の提言に関する意見（資格取得にかかわる問題）

- 建築計画の厳選に伴う学習指導法として、住宅を中心に据えた展開方法は最も一般的で、理解できる。

- 不足する単位の補いに他教科との連携が必要である。

計画原論は工業数理や実習と、各論では課題研究や製図との連携などが考えられる。

- 「資格取得」を念頭においた見方をすれば、多々問題が生じる。

二級建築士や二級施工管理技術者試験の出題傾向を踏まえると、とりわけ、「計画言論」や「設備」の分野を大幅に削減する展開方法には問題が多い。2単位履修を考える場合、資格試験対策の補いは必須である。

- 建築を学ぶ上に大切な基本的な専門用語（キーワード）の欠落も見逃せない。

(2) 建築計画の指導法に関する意見。(授業展開のありかた)

- 地球環境やエネルギーといった側面から計画原論をとらえ、さらに、住宅の計画につながる展開方法もある。
- 地域性を踏まえた計画原論から、気候風土に根づいた住宅の計画を考えさせる展開方法もある。
- 日本人の住いの文化、住まい方の歴史の変遷を学びながら、住宅計画の授業に入る。
- 現実的な自由設計へのアプローチを目途に、計画する力が養われるような授業展開に主眼をおく。
- あくまでも、建築を学ぶ上に必要な興味関心を呼び起こす、いわゆる動機づけとして「計画」を位置づける。

これらの他にも、計画の授業のありかたを巡っては、実践報告も含めて多様な考え方が披露されました。

「建築計画」は、指導者によって「基本的なありかた」にも及ぶ難しい側面をもつ科目として、あらためて教えられた思いがいたしました。また、住居に関しては、地域性を考えると一般論に終始できない難しさもあります。

限られた時間で、さまざまな工夫や思い入れで、授業に臨まれている様子をお伺いすることができた協議会でした。

[3] 平成10年度の分科会研究テーマについて

平成10年度は、本年度の総会・研究協議会での委員会提言『建築計画2単位履修に対応する授業展開の一例』を踏まえて、二級建築士の受験対策の面から「指導したいポイント（キーワード）」を抽出、その指導法にふれてみたいと考えています。

8. 施工分科会報告

日本工業大学付属東京工業高等学校 内藤美雪丸

施工分科会は、年5回程度の委員会を各委員の学校を順番に会場として交流を計りながら開催しています。今回は平成9年9月から平成10年8月まで、1年間の活動状況と北海道大会総会・研究協議会の内容を報告します。なお、昭和61年度から12年間の長い間主査をしておりました、山崎委員が副会長を引受けることになりましたので、今年度から私が務めることになりました。よろしくお願い致します。

平成9年10月21日(水) 平成9年度第3回委員会 (国立東京工業大学附属工業高校)

1. 理事会の報告
2. 平成9年度長野大会 総会・研究協議会の報告 (6月12日～13日)
3. 平成9年度夏期研究協議会の報告 主催・構造分科会 (7月28日～29日都立田無工高)
4. 平成9年度の研究課題の検討

4分科会の共通のテーマ

「厳選にともなう、学習指導法」について。

施工分科会は、単位減にともなう「建築施工」の学習指導法について、平成6～8年度の3ヶ年間検討し、その成果を得た。

今年度は、単位減にともなう「建築施工実習」について、検討することになった。

各学校とも、コース制や選択の導入で、教育課程が多様化している。

そのため、平成10年度に実施する、科目・単位数・コース・選択科目など、またとくに「建築施工実習」の学習内容について調べ、その資料をもとに学習指導法を検討することになる。

平成9年12月10日(水) 平成9年度第4回委員会 (都立葛西工業高校)

1. 各委員会からの提出資料をもとに、「厳選にともなう建築施工実習の学習指導法」について検討する。

その結果、2単位(連続2時間)での、実習内容(指導案)について項目ごとに検討する。

平成10年3月11日(水) 平成9年度第5回委員会 (日本工業大学付属東京工業高校)

1. 理事会・主査会の報告
2. 平成10年度委員の確認をする。

施工分科会委員：木村孝(桐生工高)先生は退職、飴谷知久(安田学園高)加入。

製図コンクール：田辺登委員は留任、佐藤克典委員に代り伊藤彰人委員を選出。

3. 各委員からの提出資料をもとに、「建築施工実習」の2単位での、項目ごとの実習内容について検討する。

平成10年5月26日(火) 平成10年度第1回委員会(県立神奈川工業高校)

1. 理事会・主査会の報告
2. 平成9年度の研究課題について、最後のまとめをする。
 - ① 施工分科会の資料を検討し、印刷・製本・発送する。
 - ② 研究協議会の進行内容について検討する。

平成10年6月11日(木) 北海道大会・施工分科会研究協議会の報告 出席者40名

研究協議会は、多数の先生方へ出席していただき、約2時間熱心に討議・意見交換をすることができました。ここに内容の一部を記載いたします。研究課題の詳しくは、資料No.33を参照して下さい。

※ 施工分科会の活動報告・研究課題の説明……堀口 武委員(武蔵越生高校)

1. 研究課題 「厳選にとまなう“建築施工実習”の学習指導法について」
 - ① 「建築実習」に関する、教育課程・学習内容の例
新教育課程の実施を踏まえ、各学校では地域や生徒の実態に応じて、特色ある適切な教育課程の編成に取り組んでいる。当分科会委員の学校においても、コース制や各種選択教科・科目の導入などにより多様化している。そのため、平成10年度実施予定の教育課程・学習内容の例を参考のため掲載した。
 - ② 「建築施工実習」の学習指導法の例
単位減にとまなない、学年・コースなどによっては2単位で「建築施工実習」を履修するようになってきている。すなわち、1項目の実習について、内容の説明・準備・実習・片付けを2時間(50分×2=100分)で行うことになる。そのため、2単位での実習項目と授業内容について検討した。

- ※ 実習項目
- | | | | |
|--------------|-------------|----------------|-----------------|
| 1. 平板測量 | 2. 水準測量 | 3. 建築測量 | 4. 大工道具の整備と使用方法 |
| 5. 木造軸組模型の製作 | 6. 木造継手の墨つけ | 7. 縄張り・水盛り・遣り方 | |
| 8. アーク溶接 | 9. 高力ボルト接合 | 10. 鉄筋の組立 | |
| 11. 足場の組立 | 12. 玉掛け作業 | | |

2. 「建築施工実習」を安全に指導するため、指導者(教員)が資格を必要とする実習項目について、資料を提出し、ご意見を伺った。

研究協議会では、出席者の自己紹介とともに、「建築施工実習」の内容を報告していただき、また、「教育課程と実習内容」のアンケートにも答えていただいた。

各種実習に関する資格・安全教育について、次のようなご意見があった。

- ・資格がなくても、実習を指導してよいのか。
- ・各作業について、資格を取得して指導すべきではないか。
- ・工業科教員免許でよいのではないか。
- ・資格が必要な実習は、実施していない。資格に関係ない実習を実施している。
- ・玉かけ、危険物、木工、重機などの資格は、県で取得を奨励している。県費負担。

- ・木工機5台以上は、管理責任者が必要である。
 - ・管理上のことと、指導上のこととは別ではないか。
 - ・玉かけ、移動クレーンは、高校生には危険な実習ではないか。
 - ・木造実習は、資格者がいないので県教委へ申請し、社会人講師に来てもらった。
- 施工分科会へ、次のような要望がありました。
- ・教科書に沿ったスライドを作成して欲しい。
 - ・スライド教材（W, RC, SRCなど）があれば知らせて欲しい。

出席者や会員からの要望・意見を、これからの委員会で検討することにし、閉会した。

平成10年8月28日(金) 平成10年第2回委員会（日本工業大学赤倉山荘）

1. 北海道大会 研究協議会の報告
2. 平成10年度施工分科会 研究課題について検討する。

平成6年度に「課題研究」のテーマについて検討したが、その後実践内容の検討をしていないため、今年度は「課題研究」の授業において、「建築施工実習」に関係するテーマがどのような内容で行なわれているか検討することにした。

3. 「建築施工実習」に係わる、安全教育と資格取得についての報告（田辺 登委員：昭和第一学園高校）

教育現場においても、設備について安全教育が最優先の風潮になってきている。簡単に検証して見る。労働安全衛生法第59条の安全衛生教育や同規則第35条の雇入れ時等の教育で事業者は、①雇入れ時、②作業内容を変更した時、③一定の危険有害業務に就かせる時は、その労働者に対し教育を行う事としている。又、労働安全衛生法第14条により、同法令6条の作業は作業主任者を選任し、従事する労働者の指揮、その他の労働省令で定める事項を行なわせる。とある。これは、事業者の業務として責任が問われる所である。

建築の設備に限っては、労働安全衛生規則第129条により、労働安全衛生法施行令第6条第6号の作業を行う事業場にあつては作業主任者を選任し、指揮・点検・措置および監視を義務づけている。

これらの事項を教育現場としてどう受け止めるかであるが、労働基準法第8条適用事業の範囲を定めており、12号で教育、研究又は調査の事業として学校教育も含むとある。従って、これは労働基準監督機関の職権で監理される事になる。但し、地方公務員法第58条④号において、労働基準法第8条第1号から10号まで、及び13号から15号までに掲げる事業に従事する職員を除き、人事委員会又は人事委員会を置かない所は地方公共団体の長が行うとあり、12号の教育に関して、つまり公立学校は人事委員会で指導する。国立では国家公務員法第16条により、労働安全衛生法は第2条の一般職に属する職員にはこれを適用しないとあり、及ばない様である。

なお、昭和第一学園高校建設システム科においては、来春（平成11年2月、3月）に3日間木工機械の為の講習会を受講する事になっている。

9. 構造分科会報告

東京都立田無工業高等学校 大久保 健

平成9年10月より平成10年9月までの1年間の構造分科会活動状況の概要を報告します。

平成10年1月30日（金） 第1回委員会（蔵前工高）

1. 平成10年度総会（北海道大会）構造分科会発表・協議内容検討

議題：共通テーマ「厳選に伴う学習指導の具体化」について、[今回は必要最小限の指導内容について検討を重ね、それをどのように具体的に指導することが現状の生徒にとって有効か]との観点から検討する。

共通テーマについての解釈：委員各校における実態についての情報交換により、工業高校の将来性についての意見交換を行い、概ね次項の方向性を得た。

a. 一応は建築科に入学したものの、将来の進路についての意志は不安定な生徒が年々増加の傾向にある。そこで年次進行に伴い、進学・建築関係就職・その他の業界に就職等の選択が可能なカリキュラムを考慮する。

b. 教室での座学が苦手な生徒が増えつつある今日、「建築構造」「建築構造設計」について基礎的な内容の学習にとどめ、各自の進路の必要に応じた技能・知識については体を動かす作業を通して修得できるコースも配慮する。

c. [工業基礎][工業数理]の各2単位（計4単位）で「建築構造」「建築構造設計」の必要最小限の指導内容について組み込み、それ以上の応用については進路希望に応じた選択コース制で補う方法で検討する。

以上の観点から「建築構造」「建築構造設計」について各2単位での指導を前提とした最小限必要とされる事項・内容について各委員の検討内容を次回までにまとめる。

平成10年3月6日（金） 第2回委員会（蔵前工高）

1. 平成10年度総会（北海道大会）構造分科会発表・協議内容検討

議題：共通テーマ「厳選に伴う学習指導の具体化」について、[今回は必要最小限の指導内容について検討を重ね、それをどのように具体的に指導することが現状の生徒にとって有効か]との観点から委員各自の作成した「年間指導計画」を基に検討した。

この際、2単位で指導できる『必要最小限の指導内容』についての指導目標をどこに置くかを検討の結果、次の2点に絞った。

a. 資格取得（二級建築士等）受験に要する基本事項を含む

（資格取得時に自学自習する際の足掛かりとなる程度で、各項目について広く、浅く）

b. 「建築構造設計」として理解すべき最低限必要とされる内容のみとする。

(基本的には、部材設計の意義を理解できる程度とするが、関連事項に関する取捨選択の観点については、対象となる生徒によって異なるため、委員の所属校による)

以上のいずれかの方向で別紙にて具体的な例題、補助教材の内容を盛り込んだ「年間指導計画」を次回まで各自作成し、持ち寄る。

平成10年4月28日(火) 第3回委員会(蔵前工高)

1. 平成10年度総会(北海道大会)構造分科会発表・協議内容検討(継続)

前回到引続き、各自が作成した「建築構造設計」を2単位で指導する「必要最小限の指導内容」についての年間指導計画案を検討した。

前回の検討結果より、次の2点に分けて発表し、検討した。

a. 資格取得(二級建築士等)受験に要する基本事項を含んだ年間指導計画案

各項目について広く、浅く(将来の自学自習の足がかりと考える)

b. 「建築構造設計」として理解すべき最低限必要とされる内容を厳選した年間指導計画案

部材設計の意義を理解できる程度(取捨選択については対象生徒により異なる)

a案については松井先生、b案については今井先生がまとめた。

a案、b案の具体的な補助教材・資料を次回までに各委員が持ち寄る。

構造部会主査本間先生病気療養の為、主査代行を松井先生に決定。

総会については、大会に参加の大久保先生が代行する。

新たに市川工の青柳先生が委員に選出される。

平成10年5月22日(金) 第4回委員会(蔵前工高)

総会・分科会の役割分担

①理事会出席・総会への報告		大久保
②分科会	司会	西村
	記録	榎本
	発表	大久保

a案、b案の具体的な補助教材・資料を各委員が持ち寄り検討した。

総会・分科会資料の印刷、梱包、郵送

平成10年6月11日(木)～12日(金) 総会・分科会(北海道大会)

構造分科会

参加者32名で行われた、共通テーマである「厳選に伴う学習指導の具体化」を受け

構造分科会委員会で建築構造設計について最小単位として2単位で指導できる必要最小限の年間指導計画案をまとめた。

a. 資格取得（二級建築士等）受験に要する基本事項を含む

資格取得時に自学自習する際の足掛かりとなり程度で、各項目について広く、浅く指導する。言い換えれば、構造設計の大まかな流れが理解できることと基本的な計算（二級建築士に出題されるだろう事柄をできるだけ含む）ができる指導を考える。

b. 「建築構造設計」として理解すべき最低限必要とされる内容のみとする。

基本的には、教科書に沿って内容を厳選して進め、第4章の部材設計の意義を理解できる程度とするが、関連事項に関する取捨選択の観点については対象となる生徒によって多少異なるため、委員の対象校とした。

全参加校より現状をふまえた報告、ご意見をいただいた。参加校においては工業数理を含めて、4～5単位で行っている学校が多かった。現状の4単位から2単位で行うことは難しいが努力していく必要がある。

その対策として工業数理で専門的な分野を重点的に行う、さらに工業基礎、材料実験等でより理解を深め建築構造などの教科との関連性も深める。

補習、選択などは、算数的な学力差を補うことが必要になる。

最後に、現実に4単位で行っている指導内容を2単位で行うためにより充実した補助教材、資料等が必要になる。

など、多くの参加校よりご意見報告があった。

その他に指導案を作成するに当たり、生徒理解度のアンケート調査を紹介した。

10. 製図コンクール運営委員会 (第16回 審査結果報告)

東京都立蔵前工業高等学校 土田 裕康

第16回（平成9年度）製図コンクールには会員校および、会員以外の諸先生方のご協力を得て優秀な作品を多数応募いただきありがとうございました。厚く御礼申し上げます。今後とも、諸先生方の絶大なるご協力、ご支援をお願い申し上げます。

なお、第16回の審査結果につきましては、入賞者一覧表および課題3の金賞図面を住宅建築の専門月刊誌である「住宅建築」（建築資料研究社刊）の平成10年2月号に掲載しました。

1. 応募校数

73校（全日制 70校、定時制 3校）

東（会員校） 全日制 64校 定時制 3校

西（会員校外） 全日制 6校 定時制 0校

2. 応募作品数

	学校数・作品数		全日制・定時制の別			
	東	西	全	全	定	全
課題 1	60校	114点	58校	110点	2校	4点
	6校	12点	6校	12点	0校	0点
課題 2	51校	96点	49校	93点	2校	3点
	5校	9点	5校	9点	0校	0点
課題 3	40校	70点	38校	67点	2校	3点
	4校	8点	4校	8点	0校	0点
計	309点（東 280点・西 29点）					

3. 各課題応募作品数・学校数

	1点	2点
課題 1	4校	63校
課題 2	7校	49校
課題 3	10校	34校

4. 校内作品審査数の統計

	課題 1	課題 2	課題 3
東	2,169	1,441	1,168
西	219	109	114
計	2,388	1,550	1,282

5. 都道府県別応募数・学校数 平成9年度 (第16回)

都道府県	会員 校数	課 題 1		課 題 2		課 題 3	
		学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数
1 北海道	18(5)	0	0	0	0	0	0
2 青 森	6	2	3	0	0	2	4
3 岩 手	4	3	6	3	6	2	4
4 宮 城	4(1)	1	2	1	2	1	1
5 秋 田	5	1	2	1	1	1	1
6 山 形	4	1	2	1	2	0	0
7 福 島	7(1)	2	4	3	6	0	0
8 栃 木	8(1)	5	10	4	8	2	4
9 群 馬	8(2)	5(1)	8(2)	3(2)	5(3)	3(2)	5(3)
10 埼 玉	6(1)	5	9	5	10	2	4
11 茨 城	5	2	4	3	5	2	3
12 千 葉	7(1)	3	6	2	4	2	4
13 東 京	13(3)	6	11	5	10	6	11
14 神奈川	11(4)	2	4	2	4	2	3
15 山 梨	4(1)	3	5	3	5	3	5
16 新 潟	3	1	2	0	0	0	0
17 長 野	5(1)	4	8	1	2	1	1
18 富 山	2	0	0	0	0	0	0
19 石 川	5(1)	0	0	0	0	0	0
20 福 井	2	0	0	0	0	0	0
21 静 岡	9(3)	2(1)	4(2)	1	2	0	0
22 愛 知	9(1)	7	14	7	13	5	10
23 岐 阜	7	5	10	6	11	6	10
計	152	60	114	51	96	40	70
定時制	(26)	(2)	(4)	(2)	(3)	(2)	(3)
24 西日本	130(23)	6	12	5	9	4	8
三重<6>・大阪<4>・兵庫<6>・広島<7>・愛媛<6>							
合 計		66	126	56	105	44	78

() 内の数字は定時制

6. 入賞者一覧表 (第16回)

課題 賞	課 題 1	課 題 2	課 題 3
金 賞	半田工業高等学校 竹内辰徳	高崎工業高等学校 猪又久枝	弘前工業高等学校 渋谷香純
銀 賞	鶴見工業高等学校 渋谷健司 沼津工業高等学校(定) 松岡京子 岐南工業高等学校 大瀧和代	龍野実業高等学校 川畑絵理子 飯田長姫高等学校 伊藤 健 神奈川工業高等学校 宮本梨恵	鶴見工業高等学校 原 雅彦 下館工業高等学校 武村 亮 豊橋工業高等学校 石川力資
銅 賞	白石工業高等学校 小澤 充 新潟工業高等学校 星野景子 新潟工業高等学校 阿部誠治 半田工業高等学校 山下修司 松山聖陵高等学校 片山裕也 福島工業高等学校 正木 守 飯田長姫高等学校 矢澤洋俊 飯田長姫高等学校 岡島弘幸	中津川工業高等学校 飯田洋文 龍野実業高等学校 船元哲夫 松山聖陵高等学校 稲田将之 松山聖陵高等学校 伊賀上亮 高崎工業高等学校 杉本佳子 高崎工業高等学校(定) 池田 聡 神奈川工業高等学校 加藤大輔 高山工業高等学校 砂田一樹	高崎工業高等学校(定) 三原 宏 神奈川工業高等学校 細谷信慧 昭和第一学園高等学校 川手雄樹 豊橋工業高等学校 深川達也 神奈川工業高等学校 西野香織 碧南工業高等学校 菅原大輔 龍野実業高等学校 谷口弘樹 蔵前工業高等学校 加賀山豪士
奨励賞	前橋工業高等学校 定時制 竹内博紀	前橋工業高等学校 定時制 大友絵理子	高崎工業高等学校 定時制 中曾根忠克

7. 審査講評

第16回製図コンクールには、東日本建築教育研究会に加盟校および、加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂き、別紙のような多数の作品を提出して頂きました事を厚くお礼申し上げます。

審査は課題ごとにチェックポイントを定め、減点方式により複写図の表題欄をカットして、厳正かつ公平に実施しました。

課題1は、参考図を製図の基本（線の太さの区別・文字の大きさなど）に従って、忠実に模写するものであり、全体に優劣のつけがたい作品が多く見受けられました。

課題2は、参考図を模写する部分（平面・立面図）と、設計要素と表現力を必要とする部分（配置図・断面図）の内容であり、断面図の表示内容と造園計画（表現力）が入賞のポイントになりました。

課題3は、設計製図であり、配置・平面・意匠・構造計画および、製図力・表現力など、トータルなもので審査され、入賞作品は平面・立面・構造計画がすぐれており、図面表現が良いものが優先されました。

各課題ごとの詳細な講評は、別紙の通りです。入賞作品のなかにも減点方式であるため、多少の記入もれや未熟なミスのあるものもあります。

したがって、金賞・銀賞作品といえども、未熟なミスがあり甲乙つけがたい作品であるため、未熟なミスの最も少ない作品が上位になりました。今後とも生徒への適切な指導をお願い申し上げます。

8. 第16回（平成9年度）審査委員

塩澤 泰（関東第一）	古賀 昌之（墨田工）
筒井 斉（向の岡工）	福島 勝（日工大付東京工）
角田 勝男（神奈川工）	菊池 貞介（市川工）
金井 孝雄（高崎工定）	長島 佳久（春日部工）
田口 学（向の岡工定）	小沢 宏（墨田工）
大間 俊彦（関東第一）	今井 賢治（前橋工）
雨宮 行光（甲府工）	佐藤 克典（神奈川工定）
田辺 登（昭和第一学園）	増渕 政幸（宇都宮工）
岩上 成輝（川崎総合科学）	橋本 政美（昭和第一学園）
諏佐 真一（小石川工定）	土田 裕康（蔵前工）

11. 資格取得推進委員会報告

埼玉県立春日部工業高等学校 長島 佳久

1. 「平成10年度建築施工技術者試験」(第3回)の実施が決定

すでにご案内の通り、平成10年度(第3回)の「建築施工技術者試験」が平成10年12月20日(日)に、全国50都市において実施される運びとなりました。なお、今年度は、昨年度までの「土木」「造園」「管工事」「建築」の4試験に加え「電気工事」の試験が新設され、全体で5試験の統一実施となる予定です。特に、試験会場校におきましては、会場の準備、試験監督者の手配等何かとご苦勞をお掛けすることと思っておりますが、今後ともご協力の程宜しくお願い致します。

2. 受験準備への支援

これについてもすでに、(財)地域開発研究所の建築施工管理技術研究会より、「平成10年度版建築施工技術者試験問題とその解説」がお手元に届いていることと思っておりますが、今年度につきましても、同研究会のご厚意により、生徒用の教材として無償にてご支援を頂くことが出来ました。ただし、現在、経済状況が低迷してます折、今後ともこうした支援を継続できるかどうか予測しがたいとお話も伺っております。先生方には、現在、そうした状況にあるということ、予めご了解しておいて頂ければと思います。

3. 平成9年度(第2回)建築施工技術者試験に関するアンケートについて

平成9年度の建築施工技術者試験に関するアンケート実施の際には、先生方の多大なるご協力を頂き誠に有り難うございました。それらの内容につきましては、第2回目の実施ということで、施工技術者試験についてはほぼ現状でよしとするご意見が多数を占めました。そうした中で、出願時の「住民票」の添付に関しましては、これまでも様々なご意見がありましたが、平成10年5月12日付けで、全国工業高等学校長協会より正式に各試験実施機関に対し、「要望書」を提出して頂きました。それに対する実施機関からの回答につきましては、すでに文書の形でご覧かとも思いますが、端的に言えば「現行どおり添付が必要」ということようです。この件につきましては、それぞれのお立場から、さらにご意見のある所とは思いますが、本会としましては、今後、暫くの間はこのままの状態での推移を見守っていきたくと考えております。

4. 資格取得検討委員会の名称変更について

本会は、平成5年度の発足以来、「資格取得検討委員会」の名称でこれまで活動を続けて参りました。しかし、建築施工技術者試験も2回の実績を重ね、今後は、その普及・充実に力点を移していくことがより適切であるのではないかとのご意見もあり、平成10年度の東日本建築教育研究会北海道大会におきまして、正式に「資格取得推進委員会」への名称変更が承認されました。つきましては、今後とも会の活動の発展に最大限の努力を注ぎたいと思っておりますので、新名称ともども宜しくお願い致します。

12. 秋田県工業高等学校建築教育の現況

秋田県大曲工業高等学校建築科 高橋 義則

秋田県の工業高等学校建築科の概要

秋田県の建築系学科の設置高校は6校あり、すべて全日制の県立校です。

○ 秋田工業高等学校

秋田工業高等学校は、明治37年4月工業技術者の養成を目的に開校した。現在、機械科（2クラス）、電気科、情報技術科、土木科、建築科、地質工学科、材料技術科、工業科学科の8学科27学級、生徒数1093名。卒業生は26,900名を越え、秋田県では最も伝統のある工業高校である。「質実剛健」を校訓とした明るく伸び伸びとした校風で、生徒達はラグビー部をはじめ多くの部活動に活発に取り組んでいる。近年は入学する生徒の多様化に伴い、大学進学希望者が増大したため、平成6年度より教育課程に選択制を導入し、専門技術指導と進学指導の両面からの指導体制を整えた。

建築科においては、情報化社会に対応できる工業技術者の育成のために、1年時からコンピュータやCAD等の情報技術の基礎的な指導を行っている。教科指導では、「座学」と「実習・製図」を関連させた指導に心掛けると共に、課題研究では作品を完成させる体験実践を通じて自発的、創造的な技術教育を目指して指導に当たっている。

○ 能代工業高等学校

本校は米代川を流域とした木材の集散地にあり、地元の熱望によって創立され明治45年秋田県工業講習所が設置許可され、木工を主体とする科が設置された。

大正2年建築科が設置され平成2年インテリア科と合併、建築・木材料建築コースに変更された。現在、全日制は機械、電気、建築・木材、都市工学、情報技術、理数工学の6科2コース18学級、定時制課程普通科4学級からなる。建築・木材料は建築コース20名木材料コース20名として、より充実した教育をしている。市内には高度木材研究所、木の学校等があり建築、木材技術に役立っている。入学後の転科制度もあり全国で2番目に設置された理数工学科は、国立大学などに数多く進学し、実績を上げている。スポーツ関係では全国優勝48回のバスケットボール等文武両道に力を入れている。

○ 大曲工業高等学校

大曲工業高等学校は、秋田県のほぼ中央に位置する仙北平野に昭和37年、高校生の急増対策と地域社会の要請により、創立された。開校は現地から東に3km程離れた旧中学校跡地であったが、昭和39年現在地に全面移転し、昭和46年～48年に渡って校舎の全面改築が行われ、施設・設備の充実が計られ今日に至っている。

本校は創立以来、各学年機械科2、電気科2、土木科1、建築科1の4学科6学級は変わらず、現在18学級で生徒数が712（女子50）名は県内で中規模校の学校である。

建築科は、創立以来36年の経過で、1,469（女子240）名の卒業生を送り出している。現在では初期の卒業生達が各業界において中堅幹部として、全国各地で活躍中である。また、地域の業界にとって、今や無くてはならない建築技術者育成の重要な実業高校である。

○ 由利工業高等学校

本校は昭和37年に、急速に進展する産業界や地元の要望によって機械科3・電気科2・工業化学科1の6学級で開校し、10年後に建築科が新設されて現在に至っているが、数年後の40周年に向けて老朽化した校舎の改築計画と1学級削減を併せて検討中である。

校舎は南に鳥海山、西に日本海を臨む広大で環境のよい敷地にある。地元には、弱電の大手企業とその関連企業が多数あり、本校生徒の地元就職を有利にしている。教育課程はどちらかと言えば普通教科を重視し、さらに選択制も導入して多様化した生徒の要望に応じている。建築科では、基礎・基本的な内容の指導に徹し、製図については手書きを基本としながらも、CADにもかなりの時間をかけている。

○ 横手工業高等学校

本校は、昭和18年に横手町立工業学校として発足以来幾多の変遷を経て、現在、全日制は機械・電気・土木・建築・工業科学の5科20学級と定時制課程普通科4学科からなる。

横手市は映画「山と川のある町」で紹介されたが、東に奥羽山脈、西に鳥海山を望む横手盆地の中心にあり、人口約4万2千、市内を雄物川の支流の旭川が貫流し、落ち着いた旧城下町のたたずまいは絶好の教育の地である。また校舎に関して、遅くとも10年以内に改築される見通しが立ち、現在新しい横手工業高校の具体的な構想が練られている。

建築科においては実習・製図を中心に基礎的な事項を確実に定着させることを基本としている。中でもCADによる実習は県内でも唯一の専用ソフトを有する恵まれた設備のもと、充実した内容で行われている。また、建築施工技術者を始めとする各種の資格取得にも力を入れ、実践的に活躍できる技術者の育成を目標としている。

○ 大館工業高等学校

大館工業高等学校は、昭和28年、県北の鉱山城下町であった北秋田郡花岡町（後に大館市に合併）に、採鉱、機械、電気の3学科で開校したが、その後、時代の要請に沿って数度の学科再編成をへて、現在は機械、電気、土木・建築科の3学科7コース（機械科に機械コース、電子機械コース、材料技術コース、電気科に電気コース、情報技術コース、土木・建築科に土木コース、建築コース）、15学級である。専門科目は2年次からコースに分かれて学習している。さらに転科も認めている。

大館市周辺地域では、かねてから建築科を増設してほしいという強い要望を、秋田県知事に出していたが、これを受けて、平成9年4月、既設の土木科に建築コースを設置し、土木・建築科として再発足した。土木・建築科は1学級を一括募集にして、1年次は製図などの専門科目も共通履修している。この形態は愛知県の工業高校など、全国に数校あるが、秋田県では初めての試みであり、今後の工業高校の在り方として注目されている。

13. 山形県工業高等学校建築教育の現況

(その1 山形県立山形工業高校・建築科)

山形県立山形工業高等学校 深瀬 光昭

1 概況

本校は、県都である山形市に位置する。山形市は、人口約21万人、典型的な地方都市として奥羽山脈、出羽山地に囲まれ形成された村山地方の中核として機能している。

本校は、大正9年に機械科・土木科・染織科・応用化学科の4科で創立された。その後新たに昭和21年に建築科、昭和38年に電気科が設置された。

定時制は昭和23年に機械科、土木科、工業化学科の3科が設置され、昭和24年に工業繊維科、昭和36年に建築科が設置されたが平成9年に募集を停止している。

現在、本校における全日制課程の学科構成(()内入学募集定員数を示す)は、機械科(80名)、土木科(40名)、工業化学科(40名)、繊維工学科(40名)、電気科(40名)、建築科(40名)となっている。

本校の教育目標は、「豊かな教養をもち、産業界の発展に寄与できる実践力のある工業技術者をめざす」とし、工業技術者の育成に努めている。

山形大学に建築科が設置されていないこともあり、本校建築科は設置以来、地域における建築業界の中核として多くの卒業生が活躍しているが、近年東北芸術工科大学環境デザイン科、山形産業技術短期大学校環境システム科が新たに設置され、地域の建築教育に係わる構成も新たな様相を呈してきている。

2 建築教育の概要と現状

本校建築科入学生のほとんどは、村山地方の出身者である。男女の構成は、ここ10年来、女子の入学生が増加し、近年40任中12名前後で推移している。

学力は、県内の入学試験平均得点を上回っている。教育カリキュラムは、学習指導要領の改訂を受け、課題研究を頂点とし、情報技術の発展、建築業界の進展を鑑みながら再構築した。

近年、卒業後の進路に関しては進学者が増加し、毎年10名以上が4年制大学の建築課程に入学しており、就職者はほぼ全員が地元就業している。

3 高等学校における建築教育の課題と展望

近年、高等学校における建築教育を取り巻く社会情勢は、少子化、高学歴志向、業界間のボーダーレス化、技術の高度化・細分化等大きく変化している。

以上の情勢を踏まえ、本校においても次代を想定し、現行6学科を3つの系に統合し学年進行と共に各々コースを選択し専門性を高めていこうという主旨に基づいた新たな学科構想を検討している。

4 本校建築科の諸活動

(1) 二級建築士取得講習会

近年他産業界同様、建築業界でも職業に伴う公的資格取得者が、昇進・資格手当などで優遇されてきている。

10年程前に、地元の建築業界で働いている本校卒業生より、二級建築士取得講習会開催を強く要望された。

講習会発足当時、山形市内に東北芸術工科大学に環境デザイン科、産業短期大学校環境システム科が新たに設置されることになり、3学科設置後は各校の卒業生の多くが地元企業へ就職希望することが予想された。

建築科職員が講師となり、本校卒業後3年目の卒業生を対象に講習会を行っているが、近年は東北芸術工科大学に環境デザイン科、産業短期大学校環境システム科の卒業生や建築産業に携わる本校生以外の人など受講者の幅が広がってきた。

受講者の頑張りもあり、二級建築士に毎年高率で合格していることもあり、企業の理解と感謝もあり、不況にもかかわらず毎年求人をいただき感謝している。

(2) 課題研究発表会

本校建築科では、平成6年度より3年の後期に各自の研究テーマにより計画系、構造系、材料系、意匠系に分かれて課題研究を実施している。意匠系の生徒は従来の卒業設計に取り組んでいる。

毎年、研究後半になると生徒も熱をおび休日返上で頑張るケースが多くみられる。生徒の熱意に報いるため、課題研究発表会を5年前から施設設備の整った山形県生涯学習センターの大ホールで、保護者の参加を得て行っている。

5 総括

地方都市における高等学校で建築教育を行っているが、今後の建築業界を身据えたカリキュラムの編成や、建設業界の専門性の高度化、分業化への対応など課題も多い。しかし、教育は地域に根差したものであり、大都市圏と地方、その地域における建築教育の独自色があって当然と思われる。

これからも様々な建築教育を参考にさせていただきながら、より充実した建築教育へ発展させていきたいと考えている。

14. 新潟県工業高等学校建築教育の現況

新潟県立新潟工業高等学校建築科 景山 常樹

新潟県の工業高等学校建築科の概要

新潟県内で建築系の学科を設置している学校は、高田工業、三条工業、新発田南、新潟工業の4高校で公立のみである。工業科のクラス減が進む中、新潟県内では地域の要望から三条工業高校に転科による建設工学科が設置された。

以下生徒の動きを中心に新潟県内の様子を述べてみたいと思う。

県産業教育振興会主催で競技設計が年1回行われ各校が参加している。これは各学年クラスで最終の製図を競技設計の課題としている。優秀作品に賞状、図書券が贈られるため一応製図のレベルを維持するのに役立っていると思われる。

例年4月頃に新潟県増改築推進キャンペーン実行委員会、新潟県、新潟市主催で行われる「明日の住まい展」にも参加している。これは建築業社80社位がモデルルームの展示、住宅相談、建材の実験、展示を行うもので、そこで1コーナーを使って“県内建築科高校生優秀作品展”と称して製図・模型・建築クラブの作品の展示をしている。中でも競技設計の図面や住宅模型などは見学に訪れた一般市民より好評を得ている。

見学会や講習会は各校出身の会社経営者、女性建築士及び郷土研究者、大工さんそれに管工事工業協会の会長さんに講師をお願いして民間講師活用事業として実施している。

さらに県建設業協会主催の現場見学会も各校を順に廻して土木・建築交互に2年生を対象に実施され、1日で2～3ヶ所を見学し、業界より各校卒業生も出席願って生徒との話し合い、感想の発表会を行っている。

生徒が建築に興味を持ち、進路決定の資料を得るためにも地域社会との連携、夏季休業などを使った現場体験実習なども今後模索しなければならないと思う。

一方職員の方であるが県高校教育研究会工業部会土木建築研究会で4校が順に当番校をし年1度2学期中間試験の時1泊2日で見学会、講習会、研究協議会を実施している。その工業部会で毎年発行している刊行物「工業教育紀要」に東日本建築教育研究会の総会の報告を4校交替で記載することに決定した。次に4校の概要を述べることにする。

○ 三条工業高校

県央地域に建設関連の学科がなかったため強い要望から平成8年に建設工学科が設置された。1年次は基礎科目を共通履修し、2年次より自分の適正や関心に合わせて都市工学コースと建築コースに分かれる選択制をとっている（8年度建築19名、都市工学22名、9年度建築28名、都市工学11名）。

共通理解の必要性より両コースとも建築構造と土木計画を必修とし、工業基礎は1年3単位で広く工業の知識を身につける目的で建築、土木、化学、電気、情報の5つのテーマ

を取り上げている。

生徒には建築・土木・造園施工管理技術者・測量士補の各種資格の取得を進めているが歴史が浅いため実験、実習設備の充実が望まれる。それにかかなりの進学希望者がいるので関連の大学の指定枠の確保と必要な選択科目の検討が今後の課題である。

○ 新発田南高校

大正6年町立新発田商業学校として発足し、建築科は昭和19年新発田工業学校と改称された時にできた。その後新発田商工高校、昭和58年新発田南高校となり平成9年創立80周年記念式典が挙行された。現在は普通科6クラス、機械2クラス、建築、土木が各1クラスで建築科の卒業生は2023名である。

進学者の多い普通科の影響か建築科でも進学が5割を超え、そのための補習を実施している。工業科目の課題研究では職員全員が当たり、設定した題目を生徒が選択している。そして報告書を作り中間と終了時に発表会を行っている。

その課題研究で造った住宅模型とクラブで内井昭蔵先生の設計された新発田市内の落谷虹児記念館や文化会館等の模型を造って中学生や市民に公開し好評を得ている。

○ 高田工業高校

大正5年創立、本年で82年になる。建築2、デザイン1、土木2、電気1、機械2の計8クラスであり、卒業生は県内を中心に全国で活躍している。

建築科は昭和21年に新設され25年から2学級となり、50年代までは全国大手企業中心に就職したが、現在は約60%が進学、残り40%が地元を中心に就職している。

特徴的な授業としては、建設業界の中で中堅建築技術者として活躍させるため、3年の実習でコンクリートに係わる一連の総合実習を取り入れ100ページ前後のレポートを提出させていることである。また、課題研究では生徒の希望を中心に1班10人前後の編成で「作る・造る・創る」を実践している。3年次には選択科目が4単位あり、この4単位は当該科・普通科・他工業科の科目の中から選択できるようになっている。

○ 新潟工業高校

建築科が設置されたのが昭和24年である。業界の強い要望で建築設備コースが59年に設けられ従来のは建築コースと称され、全卒業生数は2570名である。

定員は80名で生徒はコース別に募集され、設備コース設置と共に校舎も増築（空気調和・衛生給排水・電気実習室の他に施工実習室・製図室・測量実習室）され、職員も機械・電気の専門家が配置された。

秋には中学3年生に実習や製図を中心とした学校見学会を実施している。その時にクラブの建築部が東京（法隆寺宝物館新築工事現場、国立西洋美術館免震工事現場）・京都・奈良・神戸・姫路の建築物を見学し、パネルや模型にまとめたものを見てもらい好評を得ている。また今年も建築施工技術者試験の合格率70%が維持できるよう生徒も職員もはりきっている。

15. 福井県工業高等学校建築教育の現況

福井県立武生工業高等学校 建築科 橋本 和之

■はじめに

現在、本県で建築系学科が設置されている工業高校は、公立が武生工業高校と敦賀工業高校の2校、私立が福井工業大学附属福井高校の1校である。この3校のうち敦賀工業は、設立当初、兵庫県から転任された先生の関係で西日本工高建築連盟に所属し、武生工業と工大附属福井高校（当時は福井実業）は東日本建築教育研究会に所属するという一つの県内で所属団体が東南に分かれるということになった。

各校のどの建築科も1学年2クラスを有する時期もあったが、敦賀工業は平成7年学科再編により建築科が建築システム科となり、現在1学年40名、教諭4名、実習教諭1名、実習助手1名。福井高校は昭和42年建築科を建設科と改称し、建築コース・土木コースに分け、現在1学年20名、教諭2名（いずれも土木）。武生工業は、平成9年学科再編で、建築科は都市工学科と統合され、都市・建築科建築コースとなり、現在1学年20名、教諭3名、実習教諭2名。武生工業高校建築科といえるのも本年度限りである。

21世紀を前に学校教育はますます大きく変わろうとしている。その主たる要因は、平成15年（2003年）の完全週5日制実施であり、少子化による生徒数減である。

福井県の場合、中学3年生の数は平成12年（10,431名）を境に横ばいから減少に転じ、平成21年（8,335名）めで落ち込む。今後10年間で約2,000名の中学生が減少するのである。職業系専門高校の存続にも影響する数字である。この重要な時期に先輩達の足跡を振り返ってみたい。

■先輩達の足跡

昭和30年代の後半、国策による工業立国を目指して全国に多くの工業高校が設立された。本県でも昭和34年武生工業、昭和37年敦賀工業、昭和38年春江工業、昭和40年大野工業、私立では昭和34年福井実業（現在の福井工業大学附属福井高等学校）と開校が続いた。普通科よりも工業を選んだ優秀な生徒、企業からの技術をもった転職組の先生、情熱あふれる若い先生、このような人々が不十分な施設・設備のなか大変奮闘された。田中首相の列島改造論とともに工業高校卒業の優秀な技術者の活躍により経済急成長を遂げたのである。ここに、本県工業部会誌創刊号（昭和40年5月）の巻頭言を紹介し、時を超えた問題を再認識したい。

武生工業高等学校長 生田 篤治 氏

諺に「量は質を生む」と申しますが、決して無為に質の向上を期待することはできないと存じます。工業高校の急増にともなう生徒の質の問題を考えると、思わず身にひきまされる責任を痛感するものであります。この急増期の工業高校に入学した全生徒が果たして工業界の要請に応じうる、真に役立つ中堅技術者として要請されているかという点、すなわち入学生の学力の幅の拡大に対処する教育法の諸問題を検討すべきだと思います。今日の

めざましい科学技術の進歩と開放経済下の生産技術の激しい競争との両面に適応し得る自信をもった卒業生を世に送り出す責任をわれわれが負わなければなりません。そしてそのためにはよい教師とよい施設設備とが是非必要であると信じます。よい教師に期待することは今日一番重要なことがらを正確に教え、それぞれ能力のちがった生徒たちが学習に対し自発的創造的に取り組むよるこびを感じるような指導をし得る努力を払ってゆくことにあると存じます。それには例えば米国のどの高等学校でも行っている能力別指導法とか適正別指導法、さらに進路指導の方法などを学びとるとともにいろいろな問題を考えねばなりません。今日ほど工業高校教育において問題の多い時代はないと思われまます。わたしたちは進んでこの諸問題を検討するために大いに勉強し、自分のこの聖職に対し一つの誇りをもって前進しなければならないと思います。

■福井県の動向

本年3月福井県高等学校教育問題協議会から「21世紀を展望した本県の望ましい高等学校教育の在り方について」の答申が出された。

その主な内容としては、以下のものがある。

- ① 普通科高校、職業系専門高校、総合学科高校は、それぞれの目標と役割があるので、基本的には、それぞれの学科のみを置く高等学校とすることがのぞましい。
- ② 学校規模は、全生徒の在籍者数で500人～1,000人程度が望ましい。また、生徒数の急激な減少が見込まれる中で、統合による再編成も視野に入れて、その実現を図る必要がある。
- ③ 職業系専門高校の募集定員は、明確な目的意識を持つ生徒に絞る必要がある。

この答申を受けて福井県産業教育審議会が今年度中に職業系専門高校の在り方について答申を出す。

また、教育委員会総務課内に学校再編グループが設置され、ここが事務局となり福井県高校問題研究会が発足。平成10、11年の2年間かけて、普通科も含めて学校再編を検討している。

工業高校を取り巻く環境は、外に総合学科、中高一貫教育、大学進学志向、内には不本意入学、学習意欲の欠如、基礎学力の不足、不登校など難しい問題を抱えている。

困難な時代こそ抜本的に見直すチャンスである。できるところからやっいてこうということで、昨年12月工業教員研究大会で、現場教員によるパネルディスカッションが企画された。さまざまな視点からの意見発表があり、意見発表の後の意見交換ではパネラーからだけでなく会場からも活発な意見が出され、予定時間を30分近くも超過しての閉幕であった。その意見一つ一つが、今後の工業教育の進むべき方向を考える上での「出発点」となり、敦賀工業ではさっそく8月に小学生親子を対象にしたものづくり体験を企画し、武生工業では中学校の技術の先生との連携を模索中である。

そこに住む人たちがみずからの町、あるいはみずからの地域をつくりあげていくというこれからの地方分権という体制の中で、地元のものづくり、まちづくりの活性化の鍵を握っているのは地元の工業高校である。ものづくりの楽しさを教えることを基本とし、各科、各校と競い合って、地域に密着した魅力ある工業高校を皆さんと力を合わせ創りたい。

16. 事務局からの報告・ニュース

イ. 平成10年度（第48回）の総会・研究協議会が北海道札幌市で開催されました。当初、参加者が少ないのではと心配されましたが杞憂に終わりほっとしています。大会の企画・運営に携わっていただいた北海道の諸先生方に感謝の気持ちを捧げたいと思います。悠然と大会の推移を見守っていただいた実行委員長の稲澤義泰先生（北海道札幌工業高等学校長）、思慮深い顔で全体を見渡しながらマニュアル通り進行していただいた沼田勲先生（同教諭）、本部事務局と諸連絡を取り次いでくださった吉谷啓一先生（室蘭工業高等学校長）、蓮池博文先生（同教諭）、どうもご苦労さまでした。北海道建築界の中で工業高等学校卒業生の果たした役割の評価、また、新しい試みについての研究発表は時間をかけて討論したい課題でした。これからも継続した研究発表を楽しみにしています。

総会・研究協議会は私達がいろいろな課題を持ちながら悪戦苦闘している課題の解決に一筋の糸口を見つけるよい機会です、これからも多くの先生方の参加をお願いします。

来年度は秋田県秋田市です。今から出張の計画を

ロ. 夏季研究協議会は製図分科会の企画・運営で実施されました。「CAD」と言う道具を如何に使いこなすかが問われています。操作を教えるのに精一杯の面がありますが、建築計画のエスキース、プレゼンテーションの段階まで利用できるように指導できたらと思っています。

製図分科会の先生方ご苦労さまでした。来年度は計画分科会の担当になります。なにやたらくらんでいますお楽しみに。

ハ. このニュースが発行される頃には第3回「建築施工者技術者試験」が実施されることでしょう。合格率向上のために受験生のご指導をお願いしたいと思います。

ニ. 前年度の総会で「創立50周年記念行事実行委員会」の設置が認められ少しずつ作業が進んでいます。このニュースが配布される頃には各学校に募金活動の協力依頼を届けようと思っています。前回と同様にご協力をお願い申し上げます。

ホ. 総会時に事務局報告として次の文書を配布しました。ご一読ください。

1. 情報交換 急遽お願いしましたが、とても大切なことだと痛感しました。

A. 建築不況下での就職状況で各校で大変苦況に陥っていること。特に女子生徒の就職が思わしくない。

大学・専門学校への進学者の急増。約半数の生徒が進学している様子が報告されている。会員校全体での傾向。

B. 学科改変が進んでいること。

括り募集、建設系学科（建築、土木科）

C. 総合学科への移項

建築科のある学校では岐阜県立岐阜西工業高等学校が総合化に変更になりました。参考のために一部を紹介します。建築科、土木科、工業化学科、設備工業科の4科が統合されて「環境テクノロジー系列」になります。選択教科目として設備施工、環境製図、環境実習、衛生・防災設備、土木施工、空気調和設備、環境保全、建築計画、環境システム施工、化学工学安全、木材工芸、測量等です。詳しくは岐阜総合学園高等学校にお問い合わせみてください。

工業科での総合選択制を導入している学校もあります。また、農業科、商業科との相互の乗り入れを考えているとの報告も見られます。

D. 地域との関係の重視

Aの職業状況にも関連しますが普段から地域との交流をとっておくことが教育環境のためにも有効と思われる。

など多くの問題点が報告されています。

2. 本会で出版されている学習参考書のリストは次のようになっています。

建築構図集	実教出版 (850円)
新版建築の基礎問題	実教出版 (1,236円)
建築施工技術者試験テキスト	実教出版 (1,950円)
建築法規学習ノート	実教出版 (1,200円)

多くの学校で採用され、学習効果を上げてください。会の収入にもつながります。

3. 編集委員会では「会員名簿」、「建築教育ニュース」を発行しています。

特に名簿の訂正箇所等がありましたら本部事務局に連絡してください。また、経費負担を少しでも軽減するために、広告を掲載したいと思います。ご紹介ください。

4. 製図コンクールの応募期日に変更になっています。

諸般の理由から昨年度変更しましたが、元に戻すことになりました。ご注意ください。多数の作品をご応募ください。

5. 会員校動静

会員校数が2校増えました。(現在154校)

秋田県立大館工業高等学校

新潟県立三条工業高等学校

会員校名が変わりました

北海道留萌工業高等学校→北海道留萌千望高等学校

6. 名簿訂正 (名簿の取り扱いにご注意ください)

役員名簿はニュース掲載が正式のものです。

26ページ 県立大館工業高等学校

誤 教諭 小林 初夫 ——> 正 教諭 佐藤 仁史

34ページ 県立今市工業高等学校

誤 講師 岡田 義治 ——> 正 講師 岡田 義和

45ページ 県立大宮工業高等学校

誤 Fax 02955-3-6915 ——> 正 Fax 02955-3-6916

7. 会則には「賛助会員」の制度があります。ご紹介ください。

平成10年度賛助会費を納入していただいたのは次の通りです。

建築資料研究社 東京デザイン専門学校 (株) クレス東京

建築施工管理技術研究会 東京建築専門学校 (社) 東京建設業協会

中央工学校 (順不同)

製図コンクールの運営費等に活用させていただきます。関係各位には厚く御礼申しあげます。(事務局)

あとかき

おかげ様にて「建築教育ニュース」1998年号ができました。

教育活動にお忙しい中で、ご執筆いただきました先生方有り難うございました。

1998. 11

編集委員会

編 集 編集委員会 古賀昌之(墨田工) 遠藤 勇(日工大付東京工)
菊池貞介(市川工) 鈴木 健(葛西工) 大間俊彦(関東第一)
発 行 東日本建築教育研究会 (代 表 北島 敬己)
事 務 局 〒111-0051 東京都台東区蔵前1-3-57 TEL 03-3862-4488
都立 蔵前工業高等学校 (事務局長 堀内 仁之)
編集事務局 〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11 TEL 03-3653-1541
関東第一高等学校 (大間 俊彦)